



2019年12月議会一般質問



▲県土整備事務所パンフレット表紙

今後の市町村支援のあり方と糟屋郡の地域振興について

12月11日（水）就任後3度目の一般質問に登壇し、地元糟屋郡の今後について、小川知事に質問と要望をしました。全文はホームページでご覧いただけます。



i. 県内における新たな市町村合併の可能性について

知事：令和22年頃、高齢者人口はピークを迎えると見込む。市町村が行財政基盤を中長期的に維持するために、①自主的な市町村合併②市町村の広域連携③県による補完等、*多様な手法から市町村自らが選択することが適当である。

ii. 市町村制施行の周年行事について（志免町、宇美町の例）

知事：本年は、宇美町が町政100周年を迎える。周年を機に地域の魅力を町内外に発信し、住民に郷土愛を育んで頂けるような記念行事に関しては、県としても、財政支援を行い、私（知事）や副知事が出席し参加者と共に祝いをしていく。

iii. 糟屋郡の人口増加と県道筑紫野古賀線（県道35号線）の整備について

知事：須恵中央交差点や門松交差点は、福岡県交通渋滞対策協議会で「主要渋滞個所」とされるなど、慢性的な交通混雑が発生していると認識している。糟屋郡内の17.5kmにおいて4車線化する事業を行っており、これまでに10.6kmの区間が完成している。現在、宇美町、須恵町、粕屋町において、残る6.9kmの区間も地元の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、整備を進めている。

iv. 県政のさらなる発展のため、糟屋郡の7町がそれぞれ輝くために必要なことは？

知事：身近に楽しめる自然や歴史文化を生かした魅力的なまちづくりが行われ、子育て世代の転入も続いている。こうした世代が、生涯住み続けたいと実感できるような定住圏域として発展していくための施策を展開していくことが必要と考える。



▲粕屋警察署側から
門松交差点方向を撮影

v. 今後の基礎自治体のあるべき姿について

知事：それぞれの将来像に対応した行政サービスの提供体制を、先述の*多様な手法の中から、長期的な視点で選択していくことが重要であると考える。

福岡県議会議員 富永芳行事務所 22世紀につながる県政に！

〒811-2412 福岡県糟屋郡篠栗町乙犬678-1

092-931-5726 fAX092-931-5727

<https://t-yoshiyuki.jp>

ホームページはこちら

